

令和5年度第3回岩国警察署協議会会議録

開催日時	令和6年2月2日（金） 午後3時から午後5時までの間	
開催場所	山口県岩国市麻里布町六丁目15番20号 岩国警察署5階 講堂	
出席者	委員	木村委員、塩田委員、藤兼委員、若林委員、安村委員、 中村委員、笹村委員、杉原委員、松田委員、山田委員、 牛島委員、福多委員、原田委員、楯田委員 <div style="text-align: right;">計14名</div>
	警察署	署長、副署長、地域官、刑事官、主幹、交通官 警察安全相談課長、留置管理課長、生活安全課長、刑事第一課長 刑事第二課長、交通捜査課長、警備課長 <div style="text-align: right;">計13名</div>
議題	1 業務説明 2 諮問事項 交通事故抑止対策の推進	
<p>1 会長挨拶</p> <p>まず、1月1日に発生した能登半島地震で大きな被害が出ていることに関し、被害に遭われた方々にお悔やみ申し上げたい。岩国にも岩国断層があり油断できないので、防災対策をしっかりと考えていく必要がある。</p> <p>本日の諮問事項は「交通事故抑止対策の推進」である。令和4年まで交通事故は減少傾向にあったが、令和5年は増加に転じたとのことであり、警察には今後も交通事故抑止対策を推進してもらいたい。</p> <p>2 署長挨拶</p> <p>省略</p> <p>3 業務推進状況説明（署長）</p> <p>(1) 犯罪情勢</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 刑法犯認知・検挙状況</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 犯罪抑止重点対象犯罪の認知状況</p> <p>(2) うそ電話詐欺発生状況等</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 発生件数・被害額</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 被害防止対策</p> <p>(3) ストーカーやDV等の発生状況</p>		

(4) 交通情勢

ア 交通事故発生状況

イ 交通事故抑止対策

(5) 「令和6年能登半島地震」に係る災害警備活動

4 諮問事項説明

交通事故抑止対策の推進

5 協議

(委員)

うそ電話詐欺の被害者は、自宅に現金を置いていたのか。

(生活安全課長)

タンス預金か否かは分からない。しかしながら、金融機関に対して、高額出金の顧客には事情を聞いた上、詐欺のおそれがあれば通報するよう依頼していることを踏まえると、自宅に現金を置いていたのかもしれない。

(委員)

昨年発生した踏切での死亡事故は、どのような状況だったのか。

(交通官)

遮断機がなく警報機だけの踏切で、車両と列車が衝突し、車両が30メートルくらい飛ばされた事故であるが、警報機は正常に作動していた。

(委員)

交通事故に関する曜日別、時間帯別、車両の塗色別の資料はあるのか。

(交通官)

曜日別・時間帯別の資料はあるが、車両の塗色別事故発生状況というのは聞いたことがなく、塗色別の統計は取っていないと思われる。

(委員)

白い車両と黒い車両では、夜間の事故発生状況が違うのではないかと思うので、車両の塗色別事故発生状況を資料化してはどうか。

(交通官)

委員の発言のとおり、塗色により事故発生状況に差が出るかもしれないので、警察本部に伝達するなど、参考とさせていただきたい。

(委員)

横断歩道等の白線の補修は、道路管理者の責任で行われているのか。

(交通官)

横断歩道の道路標示、その停止線及び横断歩道ありの標示は、公安委員会所管、いわゆる警察所管である。

補修の必要性を把握した場合、警察本部に対し補修の上申をしている。

(委員)

路外の草を避けるために車線をはみ出す車がいることから、警察で環境整備の指導をしていただけないか。

(交通官)

道路環境は道路管理者が担当しているので、警察が認知した場合や警察に情報提供があった場合には、速やかに道路管理者に連絡している。

(委員)

事故の多い箇所に制服警察官やパトカーを配置することで、事故防止につながるのではないかと。

(交通官)

交通事故や交通違反が多い場所は統計で分かるので、このような場所では警らや取締りを重点的に行っている。引き続き交通事故抑止に努めてまいりたい。

(委員)

高齢者の交通事故が多くなったと聞くが、高齢の加害者が増えているのか。
高齢者の事故の原因は何が多いのか。

(交通官)

高齢ドライバーによる事故の割合は、平成25年は全体の約20パーセントであったが、令和5年は約30パーセントに増えている。

事故原因については大きな変化はなく、安全運転義務違反が約50パーセントと最も多い。

(委員)

「夜間は明るい服を着よう。」という運動を全国規模で展開するのはどうか。

(交通官)

警察では、講習やキャンペーンにおいて、明るい服を着るように広報している。反射材着用の広報についても強力に推進してまいりたい。

(委員)

岩国インター入口の交差点付近は、センターラインが消えかかっており夜は見えない。

(署長)

各警察署から警察本部に道路標示の補修について要望を上げるが、予算等の問題から実際に塗り替えることができるのは1割にも満たない。現場を確認し、優先順位をつけて対応しているのが現状である。

御庄は国道で交通量も多いことから、早急に対応するよう要望を上げたい。

(委員)

高校生のヘルメット着用率が低いと思うが、どのように取り組んでいくのか。

(交通官)

中学生のヘルメット着用率は高いが、中学生を除いた着用率は10パーセント未満である。中学生以外の着用率を高めていく必要があることから、引き続きキャンペーン等の各種施策を積極的に推進し、着用率向上を図っていきたい。

(委員)

ハンドサイン運動の広報モデルは若い人が起用されているが、高齢者の事故が多いということであれば、高齢者とその子供や孫をモデルにしてはどうか。

(交通官)

高齢者と孫と一緒に手を上げて横断歩道を渡っているポスターなどは、良いアイデアだと思う。

(委員)

自転車の違反で検挙された場合、ゴールド免許ではなくなるのか。

(交通官)

そのようなことはない。

(委員)

横断歩道はどのように渡るべきか。

(交通官)

山口県警察では、信号機のない横断歩道における「横断歩道ハンドサイン運動」を推進しているので実践していただきたい。

(委員)

自治会や老人会などの会合で、高齢者に対する講習をもっと行ってもらいたい。

(交通官)

高齢者に対する講習は、老人クラブ、包括支援センター、シルバー人材センター等と連携し、積極的に行っているところである。

(委員)

一時停止等の標識は目につくが、横断歩道の標識は目につきにくい。今後、標識が変わることがあれば検討してもらいたい。

(交通官)

道路標識は法律で定められたものであり、将来的には変わることがあるかもしれない。

(委員)

車間距離について具体的な広報をしてはどうか。

(交通官)

現状では、車間距離を確保することについて広報をしている。具体的な車間距離を示すことについては検討が必要であるが、引き続き車間距離を確保するよう指導していく。

(委員)

昔、横断歩道には旗が置かれていた。事故が多い横断歩道に旗を設置すれば効果があるのではないか。

(交通官)

この旗は警察が設置したものではなく、寄付により設置しているものがほとんどである。ご提言については、今後の活動の参考とさせていただきたい。

(委員)

シニアカーの規制はないのか。

(交通官)

法律上、シニアカーは歩行者として扱われる。車道を通行しているシニアカーを見かけたときは、歩道を走行するように指導している。

6 講評（副会長）

大変素晴らしい意見が出たと思う。

予算等の問題により補修できる道路標示の割合が低いことにはとても驚いた。

レッドフェニックス作戦は効果があると思うので、引き続き行ってもらいたい。

7 配布資料

警察業務説明資料